

代かき同時打ち込み点播機の 播種ロール改良による作業性向上効果

代かき同時打ち込み点播機の播種ロールに、従来の播種穴3ヶ所に加え、新たに3ヶ所の穴を開け改良することにより、田植機並みの作業速度 0.8m/s でも6 kg/10a 程度の十分な播種量を確保できる。また、ha 当たり作業時間は6割に短縮できる。



図1 播種ロール改良状況及び直播機取り付け位置

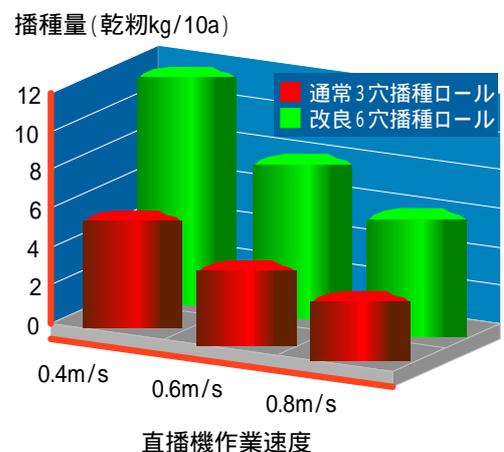


図2 播種ロール改良による播種量増加

- 市販の代かき同時打ち込み式点播機播種ロールに、従来からある3ヶ所の播種穴に加え、新たに3ヶ所の穴をドリル等で開ける。穴あけ位置は、通常3穴播種ロールの既存穴同士の間位置。穴開口部は既存穴と同じ、穴深さは6mm程度。また、種子の詰まりを防ぐため、穴底はU字型に削る。(図1)
- 改良播種ロールを用いることで、慣行田植機並みの作業速度 0.8m/s で播種する場合でも6 kg/10a程度の播種量を確保できるとともに、株間等の設定における自由度が高まる。(図2)
また、この際のha 当たり作業時間は1.6時間と通常播種ロールの6割に短縮できる。



図3 代かき同時打ち込み直播機の作業状況